

回覧

2680 地区 e-mail network 完成記念 電子冊子第 2 号

2680 地区の全てのロータリアンに
「ロータリーの魅力」をお届けします

読後の感動を
巻末の用紙にご記入下さい

Rotary の心は Fellowship です

例会は Face to Face の心の交流です

真の親睦が心の友をつくります

時代の感性を身につけて

時勢に遅れないようにしましょう

Internet はその Tool です

そして

ロータリーライフを

もっと知的に楽しみましょう

2680 地区 e-mail network 完成記念 電子冊子第 2 号

ロータリーの魅力

2 6 8 0 地区 PDG 深川純一 著

2 6 8 0 地区クラブ奉仕委員会

2 0 0 3 年 7 月 発行

『ロータリーの魅力』

伊丹ロータリークラブ

深川純一

ロータリーの魅力とは何か、ということに就いて意見を述べようということでありますので、思いつくままに私見を述べることに致します。

先ず、ロータリーの魅力という場合に、一体、何ををもって魅力というのか、ということをはっきりさせておく必要があると思うのであります。

元来、魅力という言葉は主観的なものであります。例えば、女性会員の問題を取り上げても、或る人は、女性がロータリーに入会するのは魅力的だと言います。しかし、或る人は、クラブと言うものは元来男性だけの集いであったのであるから女性が入会することは魅力的でないと言います。この様に、魅力というものを主観的にとらえると、人様々で全く議論になりません。

そこで、ロータリーの魅力とは何かと言う議論は、結局、ロータリーそのものに内在する魅力は何か、言わばロータリーの本質論に関わる視点から捉えられなければならないと思うのであります。

そこで、ロータリーそのものに内在する魅力、ロータリーだけが持っている魅力とは一体何かという事ではありますが、先ず、ロータリーも一つの社会制度でありますから、社会制度としての魅力があります。

ローマは一日にして成らず、と言われるようにロータリーも一日にして成らなかったであります。今日のロータリーは、一つの社会制度として巨大な組織を作り上げてきました。2002年12月現在、クラブ数31,314、ロータリアン数1,220,543名に達しています。これはまさに、ロータリーに社会制度としての魅力があったからであります。

全ての社会制度、例えば、農業制度、会社制度、学校制度、更に地方自治体から国家に至るまで、全て人間が作り出した社会制度というものは、社会の要請に従って生れ、社会の要請に従って発展し、社会の要請がなくなれば、即ち魅力がなくなれば脆くも潰え去っていくものなのであります。

例えば、紀元前3世紀から紀元後3世紀まで隆々として栄えた古代ローマ帝国、これも社会の要請によって生れ、社会の要請に従って発展し、社会の要請がなくなると、紀元後3世紀に脆くも潰え去ったのであります。

ロータリーも、1905年、その当時の社会の要請によって、生まれるべくして生まれ、社会の要請に従って魅力あるが故に発展し、魅力がなくなって社会の要請がなくなれば消え去ることになるのであります。

ただ、古代ローマ帝国のように国家が潰れたり、或いは諸々の社会制度が潰れても、人間の思想とか人間の開発した原理というものは、それが良質であれば消え去ることはなく、時代を超越するのであります。例えば、キリスト教の思想は、2000年の歳月を閲して、未だに私達の心の糧になっているのであり、道元禅師の正法眼蔵の提唱は、650年の歳月を超えて現在に生きているのであります。これは、人間の思想の魅力ということが出来ます。

一つの例を挙げると、古代ローマ帝国は、紀元後3世紀に崩壊する直前にローマ法という素晴らしい法律を作り上げていたのであります。そのローマ法の中に内在する思想というものは、それが良質であったが故にその後、1700年の歳月を超越して、脈々と今日に伝えられているのであります。即ち、

我が国の民法第206条には、所有権についての規定があり、所有権というものは、自分の物を自由に使用、収益、処分する権能を言うと定義されています。

この定義は、実は、古代ローマ法の中で開発された思想でありまして、その思想は、今日に至るまで変更される事なく現在の民法に伝わって居るのであります。と言うことは、社会の制度とか組織とかいうものは、社会の変遷によって魅力がなくなり消滅しても、良質な思想とか原理とかは、それが魅力あるが故に永遠に伝わっていくと示している訳であります。

一つの例え話をしておきます。二人の坊さんが刀をもって喧嘩をしました。一人の坊さんが他の坊さんの首を刀で刎ねました。その首が中空に飛び上がって、そこに止まり、やがてその首が二千年後の或る坊さんの首にスポッと納まったと言う話であります。この話は一体何を意味するのでしょうか。このような公案をいかに説くか、という問題であります。

中空に飛び上がった首を思想とを考えてください。そして、倒れた胴体を制度・組織と考えてください。制度とか組織というものは、首を切られたときに潰れます。古代ローマ帝国も紀元後3世紀に制度・組織は崩壊しました。しかし、そこに生まれた優秀な思想、即ち、ローマ法の所有権の思想と言うものは、それが魅力あるが故に1700年に亘って生き長らえて、やがて現在にその思想を受け入れる人が出てきたときに、その首にスポッと納ま

って、再び社会に受け入れられて蔓延していくという物語なのであります。これは、人間の思想の魅力であります。

そのような例が現実にあるのか、と言いますと、我が国の戦前、戦中、戦後のロータリーにその例を見る事ができるのであります。即ち、戦前のロータリークラブは、御高承の通り、昭和の初期から軍閥の弾圧を受けました。

なぜ弾圧を受けたのかと言いますと、ロータリークラブと言うものは、アメリカに本部があるスパイの手先だとか、フリーメイスンの隠れ蓑だとかいう汚名をきせられて、軍閥の弾圧を受けたのであります。これは、その当時の社会にとっては、ロータリーに魅力がなかったということでもあります。

やがて、次第々々に弾圧がきつくなって、昭和 15 年 8 月 8 日に静岡クラブが真先に解散しました。次いで、

8 月 12 日に大阪クラブ。19 日に岡山クラブ。25 日に京都クラブが解散するという具合に、日本全国のクラブが次々に解散し、最後に、9 月 11 日、東京クラブが解散しました。東京クラブの壇上に日本ロータリーの創始者米山梅吉先生が立たれました。

「重い足を引きずって私は今ここに立つ。こんなつらい気持ちで皆さんに話さねばならないのは、20 年来初めてである。私はただ、かかる結末になったことをお詫びしたい。

創立以来の 20 年を顧みるとき、誠に感慨無量である。この間、ロータリークラブが如何に国家社会に貢献して来たか、その歴史は燦として輝いている。私の眼底には、絵巻物の如く、それらが彷彿としてくる。私はただ、皆様に御礼を申し上げ、自分の不行き届きをお詫びしたい」

これが日本のロータリーが軍閥の弾圧によって壊滅した最後の姿でありました。

では、それでロータリーがなくなったのかと言いますと、ロータリーという制度・組織は壊滅しましたが、ロータリー運動はなくならなかったのであります。それは何故か。ロータリーの思想が良質であるが故に、ロータリーに魅力があったからであります。

解散当時、日本国内には、ロータリアン数 2142 名、クラブ数 48、本州に 37 クラブ、朝鮮・満州にそれぞれ 4 クラブずつ、台湾に 3 クラブ、合計 48 クラブでありました。今日のロータリーから見ると、一地区にも満たない、誠にささやかな組織ではありましたが、皆、

粒よりのロータリアン集団でありました。したがって、大多数のロータリアンは、ロータリークラブが解散して無くなってもロータリー運動は止めなかったのであります。

神戸ロータリークラブは、例会日が木曜日でありましたから神戸木曜会と名前を変えました。大阪は大阪金曜会、東京は東京水曜会、と名前を変えて例会活動を続けたのであります。

神戸クラブは、9月5日に解散し、その1週間後の9月12日には神戸木曜会と名前を変えて、早くも例会を始めました。名前を変えれば例会活動をしてよいか、と考える人が居るかも知れませんが、何故解散させられたのか、ということを見ると、これは大変危険なことであります。当時の軍閥は、ロータリーをアメリカのスパイの手先だと決めつけていたのでありますから、一旦解散しておきながら、また同じところで同じメンバーが例会している。一つ間違えると憲兵隊にしょっ引かれる虞があったのであります。

やがて、神戸は戦災で丸焼けとなり、例会場のオリエンタルホテルも壊滅しましたが、例会は止めなかったのであります。或るビルの地下室に例会場を移して、戦災で停電のため、昼でも蝋燭が揺らめいているような廊下を通って、勿論、食堂はありませんから弁当持参で例会を続けたと言われています。

この様にして、昭和24年に国際ロータリーに復帰するまで、神戸クラブは一回も例会を休んでいなかったのであります。軍閥の弾圧を受けながら、身の危険を冒してまで、あたかも隠れキリシタンのようにロータリー運動を続けて行ったのであります。何が彼等をそこまで燃え上がらせたのか。

それは、例会を中心とするクラブ親睦の良質性、その親睦のエネルギーから生まれた職業奉仕を中核とするロータリー思想の崇高性、その思想にぞっこん惚れ込んでいたが故にロータリー運動をやめることが出来なかったのであります。これは思想としてのロータリーの魅力であります。

これがまさに、先程の坊さんの首の話に当てはまるのであります。即ち、日本のロータリーは、昭和15年9月11日に東京クラブの解散を最後に完全に壊滅しました。ロータリーという組織が壊滅し、胴体と首とが離れてしまった訳であります。

しかし、職業奉仕の思想を中核とする良質なロータリー思想は消え去ることなく、例会活動を通じて伝えられ、日本のロータリーが昭和24年に国際ロータリーに復帰したときに、

胴体（組織）から切り離されて空中に飛び上がっていた首（思想）が、次の世代のロータリアンの首にスポッと納まり、そこから戦後のロータリーが再び発展して行ったと言う話になるのであります。

この話には後日談があります。実は阪神大震災の時に、芦屋川ロータリークラブも壊滅しました。大震災の2日後、クラブの元会長の福本真一さんから電話がありました。

「先生、例会場も事務局も会員の住居も事務所も全滅です。しかし、クラブ例会を開いてはいけませんか。道端でもいいから、とにかく皆で集まって、励まし合いたいです」

と言うのであります。私は、「それこそ本当のロータリーの親睦だから是非おやりなさい」といって電話を切りました。後で報告を聞いたところ、震災直後の例会には13名集まりました。例会場は適当なところを探したようであります。その次の例会は21名、3回目は23名集まったそうであります。

要するに、芦屋川クラブは、震災で例会場も事務局も会員の住居も全て潰れましたが、例会は一回も休んでいなかったのであります。

私は、この話を聞いて、戦前、戦中、戦後の日本のロータリーの精神伝統が脈々と受け継がれていることを実感したのであります。

このように、ロータリアン達が戦災や阪神大震災によって例会場も、事務局も、住居も事業所も何もかも失って無一物になった時に、彼らが継ろうとしたもの、それが実はロータリーであった、と言うことは大変感動的な物語であります。余程ロータリーに魅力がなければ、このような事は起こらないと思うのであります。

最近のロータリーは衰退しているとか、墮落しているとか、とかくの意見がありますが、私は、大震災のような異常事態になったときにロータリーの真価が判ると思うのであります。その意味で、私は、これらの体験を聞き、大変心強くも思いましたし、嬉しくも思った次第であります。これは、ロータリーの魅力として、忘れてはならない物語だと思うのであります。

イギリスでは、「ロータリーは人間の魂の在り方の問題である」と言われています。この戦前、戦中、戦後の先輩ロータリアン達の話や、阪神大震災の話を知ると、「ロータリーは人間の魂の在り方の問題である」という言葉に心底納得する事が出来ると思うのであります。これは、まさに思想としてのロータリーの魅力であります。

要するに、ロータリーの魅力と言うものは、ゴルフをしたり、酒を楽しむと言うような「感性的な親睦」の魅力ではなく、ロータリーの運動に内在する魅力、ロータリアンの心を引きつけずにはおかない「精神的な親睦」の魅力なのであります。

では、このようなロータリーの魅力は、一体どのようにすれば作り出すことが出来るのでしょうか。一昨年度の国際ロータリー会長ラビツァ氏は、ロータリーの衰退を警告しました。

何故、会員が減少するのか。経済的な不況が原因か。否、アメリカは好況であるにも拘らず会員が減少している。では、会員減少の根本の原因は何か。ラビツァ会長は、ロータリーに魅力がなくなったからだと言っています。

では、何故、ロータリーに魅力がなくなったのか。ラビツァ会長は、それはロータリアンがロータリーの基本的なルールを守らなくなったからだと言っています。したがって、ロータリーの魅力を作るには、先ずもってロータリアンがロータリーの基本的なルールを守らなければならないのであります。

ところが、昨今のロータリアンがルールを守らないことは、誠に目に余るものがあります。例えば、例会の途中退席の問題があります。昔のロータリアンは、例会には、例会時間の100%在席するべきものという教育を受けていました。しかし、近年、例会出席の60%と言うルールが制定されるに及んで、例会時間の60%在席すれば、途中退席する権利があると主張する不心得者が出てきました。しかも、12時30分に例会が始まって、1時6分まで在席するのであればまだしも、卓話の始まる前に堂々と退席していく会員がいます。これでは、50%しか在席していません。これは明らかにルール違反であります。にも拘わらず、その事を恥ずかしいとも思わない。ロータリアンとして誇りは一体何処へ行ったのかと思うのであります。

また、ロータリアンたるものは、約束を守らなければなりません。これは、ロータリアンは皆職業人でありますから、契約を守る事を意味しているのであります。しかし、近来、契約を守らないで恥じないロータリアンも出て来ました。

また、約束を守るということは、時間を守るということの意味します。時間は万人の共有物であります。時間を守らないということは他人に迷惑をかけることになります。したがって、ロータリーでは、時間を守るということが昔からの精神伝統になっているのであります。

ところが、最近、例会に遅刻しても平然として、恥ずかしいとも思わないロータリアン

が増えてきました。これではロータリーに魅力などが生まれる筈がありません。

昔のロータリアンが時間を厳しく守った例を挙げておきます。西宮クラブの八馬啓さんは、メイクアップに行ったクラブで1分遅刻しました。すると、八馬さんは、「1分遅刻したから、今日はメイクアップにしないで下さい。しかし、折角来たのだから、皆と楽しく食事して帰ります」と言って、ビジターフィーを支払って最後まで例会を楽しんで帰られました。私は、その時、ロータリーに入会してまだ日も浅かったのでありますが、これこそ本当のロータリアンだと思いました。

自分に規律すること極めて厳しい。そして、ロータリアンとしての誇りを漲らせておられる。このようなロータリアンが居て、初めてロータリーに魅力というものが出てくるのであります。

ところで、ロータリーの魅力を作るのは、1人1人のロータリアンであります。したがって、ロータリーの魅力作りに欠かせないのは、クラブのロータリアン教育であります。

昔のクラブが如何にロータリアン教育に力を入れていたかの例を挙げておきます。

昔、或る人が神戸クラブに入会することになり、推薦者から入会前のロータリー教育を受けることになりました。推薦者が朝9時に俺の会社に来いというので、その人は、言われるままに、朝9時に推薦者の会社に行ったところ、推薦者は、ロータリーの歴史、思想、原理そして実践などについて夕方4時まで延々と説き聞かせたそうであります。その人は、閉口して、うんざりしましたが黙って帰るのも悪いと思い、一つ質問をしました。すると、推薦者は、「お前はまだ何も解っていない、もう一度朝9時に来い」ということになって、また翌日朝9時から午後4時まで講議を聴かされてやっと入会することが出来たと言っておられました。

何故ここまで厳しくするのか。それは、1人でもロータリーに適しない人が入会すると、何億円にも代え難いほど大切なクラブの親睦が壊されてしまうからであります。自分たちのクラブは自分たちで守る。これをクラブ自治権と言いますが、まさにクラブ自治権の確立のために、会員選考を厳しくするのであります。このようにして、良質なロータリアンばかりが集まることによって、ロータリーは魅力あるものになるのであります。

昨今これほど厳しく会員を選考するクラブは見あたりません。むしろ、会員増強の声に押されて、誰彼かまわず、お願い申して入れてしまおうと言う風潮があります。このような会員の質を無視すると、ロータリーの魅力など生まれる筈がないのであります。

もう一つの例は、東京南クラブであります。このクラブには、例会場正面にグリーンのテーブルクロスのかかっているテーブルが二つあります。ここには、入会6ヶ月未満の新

入会員が座る事になっているのであります。そして、パストガバナー、元会長、情報委員長等ロータリー経験の深い人達が座って、毎週口コミで教育していくのであります。これは、クラブ自治権のもとに、自分たちのクラブは自分たちで魅力あるものに育てようとして、ロータリアン教育に力を入れているのであります。このようにクラブ自治権を確立することによって、ロータリークラブは魅力あるものとなるのであります。

次に、ラビツア会長の基本的なルールとは一体何かということに就いて、ロータリーの原理を整理しておきたいと思えます。

先ず、一つの職種から一人だけ会員を選ぶという一業一会員制のルールがあります。これは、ポール・ハリス自らが1905年2月23日に打ち立てた大原則であります。

それから、規則的な例会出席のルールがあります。即ち、自己研鑽のために毎週一回例会に出席することです。これは、1905年3月23日のシカゴロータリークラブの創立総会において決められた原則であり、ロータリー職業奉仕の基本前提になっている原則であります。

この二つの基本原則は、ロータリーの核にある原則であります。この事については、1959-60年度のRI会長Harold Thomasが『ロータリーモザイク』という著書の1970年代の章の冒頭に述べています。即ち、

『今日、我々ロータリアンが憂慮している問題がある。それは、ロータリーを今日の安定と力にまで築きあげてきたロータリーの二つの基本原則、これが次第に稀薄に、さらに稀薄にされて行く傾向がある。その二つの基本原則とは、一業一会員制の原則と規則的例会出席の原則である。しかも、この二つの原則は、単なる原則ではなくて、この原則の一つでも緩められていくと、それは最早ロータリーとは言えなくなるほど重要な原則である』
と切り切っているのであります。したがって、この二つの原則は、ロータリーの核にある原則即ち、ロータリーの魅力の根源であるとも言えるのであります。

では、一業一会員制の魅力とは一体何か。

自由競争社会では、同業者同士はお互いに食うか食われるかの関係に立ちますから、心を開くことができません。そこで、クラブの中から同業者を排除して良質な親睦を熟成しようというのであります。これがポール・ハリスの打ち立てた一業一会員制の魅力あるところなのであります。

ところが、一昨年の規定審議会においてこの一業一会員制が廃止され、一業多会員制に移行しました(01-148)。その結果、どういうことになるのかと言いますと、クラブの中に

同業者が沢山入ってきます。その結果、何億円にも換えがたい、金銭では買いきれないほど大切なクラブ親睦が失われてしまうのであります。これではロータリーの魅力などあり得ないのであります。

この一業一会員制の原則の廃止は、国際ロータリーの理事会の提案であります、ロータリーの魅力という観点からすれば、果たして如何なものかと思うのであります。

一つ極端な例を挙げますと、或るアメリカの大都会のクラブでは、一つの職種に弁護士が 50 名入会しています。公認会計士が 20 名を超えているのであります。ポール・ハリスが打ち立てた一業一会員制の大原則は全く無視されているのであります。

一昨年の規定審議会の決定も、国際ロータリー理事会がこのような現象に押し流されたのではないかとも思うのであります。このような状態では、ロータリーに魅力を生み出すことなど到底出来るものではありません。

元来、クラブというものは、一業一会員制の原則によって、色々な職種の会員が居て、初めて魅力あるものとなるのであります。したがって、私達は、一業一会員制の基本前提である職業分類の原則を守らなければならないと思います。現在、このルールが大変乱れています。これではロータリーの魅力など失われるのは当然であります。

日本における職業分類適用の現状を見ても、例えば、酒造業の業界では、或る酒造会社の社長であると同時に、信用金庫の理事長でもある人が居るときに、信用金庫の職業分類で入会します。或る酒造業の社長は、山林業で入会します。他の酒造業の社長は、貸しビル業で入会します。この様な操作をすれば、一つのクラブに、酒造業が数人入会することができることとなります。

これは、一つには、資本主義が爛熟して多目的企業が増えたことも一つの原因ではありますが、同業者を排除すると言う一業一会員制の観点からは、職業分類制度の正しい運用とはいえないと思うのであります。

また、例えば、関連職種の 10%の原則があり、医療業務という大分類の中では、医師の会員数は正会員の 10%を超えてはならないことになっています。したがって、50 名のクラブであれば、5 名を超えて医師を入会させてはならないのでありますが、もう一人入会させたい時に、悪智恵を働かせて、その医師が猫を飼っている事を理由に「愛玩動物飼育」と言う職業分類を作って、その医師を入会させたとすれば、これも職業分類制度の正しい運用とはいえないのであります。

この辺の所は、昔から指摘されていたところでありまして、1923-24 年度の RI 会長であったガイ・ガンディカーが『ロータリー通解』と言う本の中で、「バラの木を一本庭に植えたことをもって、農業園芸という職業分類を作ってはならない」ということを言っています。

す。したがって、昔からこのような悪智恵を働かせる人はいた訳であります。

しかも、現在のロータリーでもこのようなことが行われているようでは、ラビッツァ元会長がロータリーの魅力がなくなって、会員が減少すると言って嘆くのも無理はないと思うのであります。したがって、職業分類表を整備して、それを厳密に適用していくこと、このことがロータリーの魅力を守り、その魅力を育ててロータリーを発展させることになると思うのであります。

以上、ロータリーの魅力ということに就いて長々と私見を申し述べましたが、要するに、ロータリーには、時代の変遷につれて変っていくものと、どのような時代にも変ってはならない本質的なものがあります。世界のパラダイムが変わっても、ロータリーに本質的なものは変ってはならないのであります。したがって、ロータリーの魅力ということについても、これを具体的な実践活動その他現象的なものとして捉えれば、それは時代の変遷と共に変わって行きますが、これを思想や原理など本質的なものとして捉えれば、前途のようにそれは時代を超越するのであります。このように、ロータリーの現象面と本質面とは、明確に区別しておかなければならないと思うのであります。

以上

感動を

次のページの用紙に

ご記入下さい。

